

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」相模大野校		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 15日 ～ 2025年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23 (回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日 ～ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っている事。	一人に対して個別で療育を行っているため、支援の内容やその時の状態に合わせて毎回プログラムを考えている。	保護者様との面談で今後の取り組みについて相談し、支援の内容をより充実したものにしていく。
2	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、こども達の活動に合わせた空間となっている。	毎日清掃を実施している為、清潔を保つことが出来ている。こどもたちの支援プログラムに合わせて場所の広さをある程度調節することで適切な空間を作ることが出来ている。	道具等の古いものを新しくして綺麗なものにする。
3	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されている。	日頃の支援での様子を保護者様にフィードバック、児童発達管理責任者へ記録等で共有を行い、こどもの理解を深めている。	指導員一人一人の支援の質の向上、こどもの目標をより明確にする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の配置数	職員間の関係性、事業所内の業務内容、作業環境	職員間の良い関係性を繋げる意識作り、作業しやすい業務内容への改善
2	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対しての発信。	職員の業務量が多い為、発信をする時間が作ることができていない。	職員の配置数、業務内容の改善、発信しやすい環境作り
3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援が出来ていない。	保護者同士の交流の機会を作れていない、交流をするための時間や場所がない。	場所はビデオ通話を利用などで対応することができる。スタッフも参加しやすいような環境と内容作り、保護者会の企画を検討する等参加したいと思ってもらえる運営を考える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」相模大野校

公表日 2025 年 2 月 15 日

利用児童数 23名

回収数 22名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	7	1	0	運動をさせる時、個別だと少し狭いなど感じたり、混み合う時間帯だと通路が狭くも感じますが、教室として使用できる場所も限られると思うので多少の妥協はしかたないかなと思います。	ご不便おかけし申し訳ございません。利用人数が少ない時間帯であればパーティションを脇に片づけるなどして場所を広く取り工夫をしていきたいと思っています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	18	2	1	1	元々の人数から減ってしまったので、少なく感じる	安心して頂けるように職員の増員を企業として取り組んでいます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	3	0	0	その日の学習内容は、あらかじめ見通しを持って最初に提示してもらえている。また、その時に不要な情報などはスッカリ片付けられて整理されている。	ありがとうございます。今後も過ごしやすい空間が提供できるように意識していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	0	0	0	常に清潔感がありつつも、子供たちの作品なども掲示してあったり、季節を感じられるような飾り付けもあり、温かみのある空間だと思う。	今後も毎日の掃除や作品の掲示を継続して心地よい環境作りを意識していきます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	1	0	1	毎回引き継ぎがきちんとされており、振り返りを活かした支援がされていると思う。	目標やその時の課題点などの引継ぎを今後も支援に繋げていくように心掛けて参ります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1	0	1	支援を受けていて、特に違和感はないので、合っていると思う。	支援プログラムを利用者がいつでも確認できることをお伝えしていきます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	0	0	0	定期的に面談をさせていただいていることで、その時期に応じた支援がなされている。	保護者様に支援等の状況を伝え、生活面についてお話を伺い、理解を深めるように今後も努めて参ります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1	0	1	どの項目も、ガイドラインに沿い、無理のない現実味のある計画が立てられていると思う。	今後も各項目に対して、保護者様からも納得して頂ける支援内容を提供するように心掛けて参ります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1	0	0	保育園との連携もとってくださり、支援をしながら柔軟に対応し、次の計画に生かされていると思う。	今後も計画に沿った支援を提供していきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	1	0	1	毎回どのような意図でプログラムを行ったか、わかりやすく説明してくださり、子供も飽きることなく、真剣に取り組めていると思う。	利用者様の現在の状況や今後に向けてその都度活動プログラムを提案していけるように努めて参ります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15	1	1	5	定期的に保育園での様子を見に行っていたり、フィードバックしてもらっている。	今後も保育所や園の訪問、交流を進めていきます。
保護者	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	0	0	0	重要事項説明書を用いて、丁寧な説明があった。	利用開始時、確認を求められた際に丁寧に説明を心がけていきます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	0	0	0	すべての項目について、現状、目的、手段を懇切丁寧に毎回説明して下さっています。	支援後のフィードバックや定期的に面談を実施し、支援を「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明していきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	2	0	3	興味のある内容で開催してくださり、他の保護者との交流や、参加しやすいように、リモートでの参加など、工夫して開催して下さっています。	開催数が少ない為、今後は様々な内容でプログラムを提供していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	22	0	0	0	毎回支援のあとのフィードバックで、最近の様子を聞いてくださったり、LINEなどでも気軽に相談できる環境を整えて下さっていると思う。	今後もフィードバックや連絡を取りやすい環境を提供していきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	0	0	0	訪問するといつも子どものことを気にかけてくださり、学校での様子について助言を頂き助かっています。	定期的な面談の実施や、フィードバック時に子育てに関する相談を受け付けていきます。

目への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	0	0	0	親身になって話を聞いてくださったり、助言や保育園訪問を提案して下さったり、共感的に支援を受けられていると思う。	これからも共感を大切にしながら支援の提案や訪問などを続けていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	4	0	9	保護者会等の機会が今後あれば良いなと思っています。	開催回数、参加人数が少ない為、今後より参加しやすい内容で検討、実施していきます。開催したことを周知していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	2	0	2	すぐに対応してくださっています。	今後も相談に対して速い対応を心がけていきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	0	0	0	悩みに対して、適切なアドバイスをいただいて、助かっています。	来所頂いた際だけでなく、LINEでもその都度、受け入れられる環境を継続していきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	18	0	0	4	毎回の支援に対する連絡や、行事のお知らせなど、適切に発信されている。	SNSでの発信が出来ていないことが多い為、利用者様以外にも知って頂く機会を作っていけるようにします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	1	0	3	問題ないと思われる。	今後も個人情報の取扱いに注意を続けていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1	0	6	説明と、掲示により、わかりやすく周知されていると思う。	訓練があまり実施出来ていない状況の為、訓練の実施と周知を行っていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	2	0	9	訓練が行われたかどうか等、結果報告を掲示されていると良い。	訓練やその他必要な訓練の実施、結果報告を行えるように検討していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	2	0	1	信用している。	今後も安全な環境で支援を継続していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	0	0	5	思う。	保護者様が来所された際には直接、来所されなかった際には電話又はLINEで説明することを徹底して参ります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	21	1	0	0	初見に弱い子供だが、初めから抵抗することなく、通所できている。	これからも安心して通所出来る事業所を心がけていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18	4	0	0	「先生に教えてあげよう」「先生に見せたい」など、支援の日は楽しみにしている様子がうかがえる。	こどもから「行きたい」と思ってもらえるような支援や環境づくりを今後も模索していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	0	0	0	小学校への就学とともに事業所を卒業するのに不安を感じるほど、大変よく支援していただいております、感謝しています。	利用者様に今後も利用したい、事業所を知って頂いた方に利用したいと思って頂ける支援を目指して参ります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」相模大野校		2025 年 2 月 15 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションを使用し、利用状況に応じてスペースを変更している	パーテーションを倒したくなってしまうことがある為、その際の対応方法の検討。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		一日の中で配置数に問題はない。	業務内容の改善、職場環境の見直しが必要。常にギリギリの配置数である為、改善していく必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		こどもに応じて個室に案内するなど、環境の設定をすることが出来る。	設備など何があるのか情報を伝えていない為、情報を伝えていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		使用したものは消毒等行い、綺麗な状況を保つよう心掛けている。	道具の整理が出来ていないことがある為、整理しやすい環境作りを行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こどもの特性や状況に応じて個室を利用できる環境になっている。	指導員から案内して利用している為、利用者から使いたいと言いやすい環境を作る。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日ミーティングの時間を設定しているため、そこでPDCAサイクルに参加することが出来ている。	その日休みの職員がいるとその職員には伝わっていないことがある為、伝達方法の見直し。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の集計結果を職員に見えるようにすることで、意見を把握することが出来る。	もっと早く職員に共有して改善に向けて考えることが出来る時間を用意したい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングで設けており、業務改善に繋げている。	職員同士がより本音を伝えやすい環境で改善に向けて取り組める環境作りをする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		他校舎や上司などの評価を受け、業務改善に繋げている。	上司、管理者等のやりとりが中々すぐにはできない事がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		会社で取り上げた研修に参加することが出来る。	研修内容をすぐに実践しやすいような業務内容、環境を作る。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成して支援を行い、内容を利用者にフィードバックして公表している。	より利用者にわかりやすく、日常でも利用者が取り組みやすい内容を公表する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		1人1人個別にアセスメント、計画を作成している。	どの職員も理解しやすい内容で納得できる計画を作成する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員同士で気になる点や得意な事を検討することが出来ている。	書類を職員全員で確認できるような環境を作る。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援記録を通じて計画を共有することが出来ている。	職員同士で計画について相談しやすいようにミーティングなどを設定していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ミーティングを実施することで日々確認しながら業務を進めることが出来ている。	ツールがあまり充実出来ていない為、その時に応じたツールを用意する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		設定し、共有しながら支援内容を設定することが出来ている。	支援内容をより簡略化し、具体的に分かりやすい支援内容になるように進めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		集団支援や日々の支援を個々から発信することにより、1つの目標に対してプログラムの立案が出来ている。	チームでの立案をより深く行えるような環境設定、時間を用意する。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個々のプログラム立案により、固定化されていない。	こどもからもやりたいことを提示できる時間を用意していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		支援記録や職員のミーティングを参考に計画を作成し、支援が行われている。	状況によって柔軟に対応しながら進められる支援が行うことが出来るように計画を作成し、支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日ミーティングを実施しながら進めることができている。	ミーティングの質の向上。打ち合わせの際のやりとりの内容をあらかじめ周知する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	支援終了後に業務時間が終了してしまう為、共有は次の日に実施している。	打ち合わせができない分、日ごろのやりとりを多くできるような環境作りを目標に行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々記録を取り、次の支援に繋げている。	記録内容が細かすぎるところがある為、より簡潔に分かりやすい記録が作成出来るように設定する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		利用者様と面談も含め、定期的に見直しを行うことが出来ている。	面談の内容を書類にまとめ、職員間で共有しながら見直しを進めていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		支援や直接関わりがある者が参加している。	参加できるタイミングや経験のある職員が少ない為、今後参加できるタイミングを増やしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		小児科との連携し、支援を行う体制を整えている。	連携を取る機会はまだ多くない為、連携が取れる際には積極的に行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行に向けた支援内容の設定、関係機関連携を中心に支援内容の共有を行っている。	今後も関係機関連携を中心に移行を考えた支援内容を提供、共有を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	就学前の通っていた場所との情報共有はあまり出来ていない。	日頃から連絡を取りやすい関係作りを目指して情報共有の相互理解に努める。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	設けることが出来ていない。	支援内容、業務内容改善の為、今後参加の機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	機会がない。	機会の作り方を知ることが出来れば、今後参加していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後にフィードバックにて伝え合い、共通理解を持つことが出来ている。	フィードバックの時間に余裕があまり無い為、余裕をもった支援内容にしていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		面談やチラシ等を利用して行っている。	回数があまり作れていない為、今後より参加しやすい内容を提供していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		日々のフィードバック時にそれぞれ説明を行っている。	面談などの回数を増やし、保護様が理解しやすい説明をどのスタッフも出来るようにしていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		フィードバックや面談時に確認することが出来る。	面談を取りやすい環境を作り、家族の意向を受け入れやすいようにしていく。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画の更新の際に同意を得ている。	今後も説明を丁寧に言い、同意を得ることを徹底する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		フィードバック、面談を通じて助言、支援を行っている。	今後も面談を行いやすいように提供していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		時期を見て今後の状況や支援の目標について保護者会等で交流する機会を設けている。	回数は多くないので、機会を増やしていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		職員同士のミーティングで苦情等で共有し、対応している。	適切な対応とともに出来る事を今後に繋げていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	定期的に発信等することが出来ていない。	気軽に更新しやすい環境や状況を設定する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		ロッカー等で保管し、取り扱いに注意している。	遮るものがパーテーションのみの為、会話の内容に注意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		フィードバックや連絡を取り合いながら、意思の疎通、情報伝達のための配慮をしている。	連絡が取りやすいように今後も情報伝達を大切にしていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	図っていない。	地域の事業運営のタイミングがあれば図ってみたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月、避難訓練を実施している。マニュアルもしっかりと策定している。	プログラムの中に訓練の実施を入れ、周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月、避難訓練を実施している。BCPの策定も法人本部主導で実施している。	訓練場所の確認、避難訓練などの実施、周知を行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に状況を記入してもらって確認をしている。	定期的に再確認できる時間を用意していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	食べ物を扱わない為、対応をすることがない。	課題、改善点なし
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、支援を行っている。ヒヤリハットを共有し、事故が起きないように気をつけている。	プログラムの中に訓練の実施を入れ、周知していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		利用を始める際に説明して周知している。	いつでも確認が出来るように今後も周知を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員が入力、確認できるようにし、共有することで再発防止に向けて検討出来ている。	検討し、今後につながるように対策を考えていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		会社での研修により確保できている。	今後も会社の研修に参加し、取り組みを行っていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		利用開始時に説明し記載している。	今後も説明、記載を行っていく。